

## ○持続可能な住宅地モデルプロジェクトにおける本協定の位置付け

環境未来都市計画「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」では、郊外住宅地の再生や活性化を目指し、地域特性の異なる4つのモデル地区を指定して取組を進めています。

地域特性を踏まえ、地域、民間事業者、行政、大学等が連携しながら、地域の課題（コミュニティの希薄化、子育て支援、医療・介護・福祉、地域交通、ソーシャルビジネス振興、エネルギーなど）解決に取り組み、住民が安心して暮らし続けられる、持続可能な魅力あるまちづくりのモデルを創り出します。

### ■ 4つのモデルについて

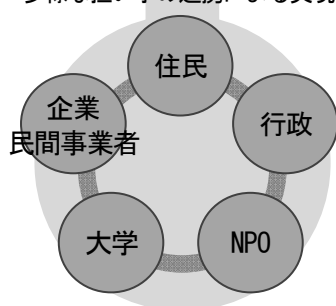
青葉区たまプラーザ 駅北側地区
協働事業者：東急電鉄(株)

緑区十日市場町 周辺地域
協働事業者：東急電鉄(株) 東急不動産(株) NTT都市開発(株)

相鉄いずみ野線 沿線地域
協働事業者：相鉄グループ

磯子区洋光台 周辺地区
協働事業者：UR都市機構

多様な担い手の連携による実現



### ■十日市場町周辺地域のまちづくりにおける「3つの視点」

【視点①】 多様な住まい生活サービス	多世代が暮らし続け交流する住まい
	日常の買い物、福祉・保健・医療サービスなど生活を支える機能
【視点②】 持続可能なエリアマネジメント	省エネ、エネルギーマネジメント、地域内移動、防災・防犯の仕組み
	地域の魅力向上や発信交流などの地域活性化の仕組み 住み慣れた住宅や地域での暮らしをサポートする仕組み
【視点③】 住み続けることができるまち	生活の質を高める住宅地を形成

本協定により推進